

阿波おんな元気サミットを終えて



また、元気サミットを開催して
私たちが元気づけて欲しいです。
徳島の女性たちの活動や
発言が「街」の活性化など
に役立つと思います。



興奮冷めやらぬ会場の外で、今日お越しのお客様たちに感想を聞きました。

今日は何か徳島を身近に感じていただけましたでしょうか？

来客者A:ここ十年来、毎年阿波踊りの見物に参りまして、市の文化センターですか、今年はアスティとくしまの前夜祭も拝見させて頂きました。四宮賀代さんの舞も拝見し、大変突出した存在だなあと感じて、そのおかげで徳島にはまりいろんな所に寄せていただきました。瀬戸内寂聴さんとか、先程紹介して頂いた立木写真館さんとか…。徳島は、僕の第三か四ぐらいの故郷じゃないかと、そういう風に思っております(笑)。

今日はファッションショーとかいろんなものをご覧頂いたのですが、何を楽しみにお越し頂いたのでしょう？

来客者B:お料理を楽しみにしてまして。期待以上に美味しくてびっくりしました。徳島の素材をふんだんに活かしていて、楽しめました。それとテーブルコーディネートも「いろどり」の葉を使ったり、テーブルによってコーディネートを変えていたり美しく感動しました。どうですか今日のファッションショーとかご覧になって？

来客者C:いろいろ楽しかったです。藍染めて今、人気が高くなっていると思うんですけども、初めて藍染めのドレスを観て、あそこ素敵だなぁって思いましたね。今ここに着られているドレスを間近で見て、結婚式なんかでもカラードレスとしてもいいんじゃないかなって思いました。

他には何を楽しみにしていましたか？

来客者C:そうですね。沢山の起業家の人達とか、パワフルな女性の方達と知り合っ、お話が出来てすごく元気がになりました。



また皆様にご覧になる日を楽しみにしております。本日は本当にありがとうございました。—— AWAおんなあきんど塾キャスト一同

awa onna akindo juku Vol.15 Spring 2008

編集・発行 AWAおんなあきんど塾・徳島市

お問い合わせ先

徳島市商工労働課 徳島市幸町2丁目5 Tel.088-621-5225-5226 <http://www.nmt.ne.jp/~akindo/>

デザイン 株式会社アワード

AWA

2008 Vol.15 特集号

awa onna akindo juku

おんなあきんど塾



イメージキャラクターデザイン 佐藤あすか

阿波おんな元気サミットは、「第2回国民文化祭」協賛事業です。

阿波おんな 元気サミット 開催!!

輝く

「藍」をテーマにしたファッションショーを開催



創る

ポスター展示



彩る

「いろどり」のおばあちゃん達によるトークショー



味わう

徳島の食材を使用したこだわりの料理と
テーブルコーディネート



ときめく

阿波おどりグループ「虹」による阿波おどり





2007年11月2日 阿波おんな元気サミット開催 ザ・パシフィックハーバー pm.6:00～

21世紀の街の元気は、 女性の素敵が創る 心の豊かさ



AWAおんなあきんど塾 キャスト
(株)クラッシュ 代表取締役
植田 貴世子

皆様、ようこそ阿波女元気サミットにお出でて頂きましてありがとうございます。
私は「AWAおんなあきんど塾」のキャスターメンバーとしての活動を今年で12年目になりますが、今、皆さんと結束して頑張っております植田貴世子と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

私どもの「AWAおんなあきんど塾」なのですが、徳島ではもう耳慣れた言葉とは思いますが、今日は県外からお越し下さっている方もいらっしゃる初めてお目にかかる訳ですが、私どもは徳島市と協働で、いわゆる街の活性化というものを女性の視点から、何か効果的な活動をして行きましようという事で1995年に結成されました。そして皆さんメンバーと共に議論を深めながら「女性起業家が育つまち」、「女性経営者が成長するまち」、を街の目標像と置きまして活動を続けて参った訳ですが、女性起業家育成資金の創設であるとか、メンターバンク制度の導入、またホームページの運営、セミナーの開催、年1回の機関誌の発行、そして最近では新たに、「若者が元気に育つまち」を、私達の街の目標像に掲げ、高校や大学に出張講座などにも出かけて行っております。

このような活動を本当にコツコツと12年。セミナーなどの参加者も、もう500名を超える数になりました。そして皆様ご承知かも知れませんが、女性経営者の比率が、私どもが結成された頃は全国第2位だったのですが、今は1位と言うことで多少なりとも私どもの活動が影響しているのではないかとこのように嬉しく捉えております。

徳島の女性は元気だと言われます。今日は男性の方もいらっしゃいますので絶対に申し上げなくてはならないのは、その元気な女性の背景には実は優しく見守って下さる心広い男性が徳島には沢山いらっしゃって、ただその優しさに甘えることなく、パワフルで凛として頑張る。その上これも是非申し上げなくてはならないことなのですが「ちょっと可愛い」阿波の女性の活動と歴史こそ阿波の文化であるという事で、今年、国民文化祭の年に共催事業としてこのような機会を設けて頂きました。

20世紀の街の元気は経済力で表現されました。でも21世紀の街の元気は、女性の素敵が創る心の豊かさ。柔らかな暮らしが溢れていること。徳島こそ21世紀型「元気のあるまち」の元祖ではないか。と今は正しくその元祖に触れて頂きたく、徳島の元気の構成要素をテーマとして「味わう」、「彩る」、「輝く」、「創る」、「ときめく」を一堂初公開。ドラマ仕立てでご紹介を致したく、宜しくお付き合いくださいようお願い致します。

本日はご参加どうもありがとうございました。

AWAおんなあきんど塾 キャスト



(株)クラッシュ 代表取締役 植田 貴世子 | 阿波産業(株) 企画開発部長 角元 愛 | (株)あわわ 代表取締役社長 坂田千代子 | (有)アイトップス 代表取締役 高岡 慶子 | モンドジッコモ(有) 代表取締役 高木 博代 | (株)とまろ 代表取締役 高畑富士子 | (株)ココアズ 代表取締役 立川 真季 | (有)新居バイオ化粧品(株)代表取締役 新居 洋子 | (株)徳島県外産物 代表取締役 和田多美子



徳島市長
原 秀樹

阿波の女性というのは元気で 素晴らしい

本日は、「阿波おんな元気サミット」に県内外から沢山の皆様にお越し頂きまして誠にありがとうございます。心から歓迎申し上げます。

国文祭の真っ最中という事で本当に徳島の街は文化一色でございます。この「AWAおんなあきんど塾」の皆さんは、徳島を元気にするのが大好きな女性でございます。昔から「讃岐男に阿波女」という言葉があるのですが、これに象徴されるように阿波の女性というのは元気で素晴らしい。

先日、国民文化祭で瀬戸内寂聴先生が書き下ろされた「モラエス恋遍路」が上演されました。

徳島の方は、ご存知とは思いますが、モラエスは、ポルトガルから来られた方で、晩年徳島を愛し、徳島の文化をポルトガルに伝えてくれたことにより、現在、徳島市とレイリア市が姉妹都市として、交流を続けております。

また、「モラエス恋遍路」のパーティの席で寂聴先生が、「モラエスがなぜこの田舎の町である徳島を愛したのは、やはり徳島の女性に惹かれてこの徳島の地にやってきたのではないのでしょうか。」とおっしゃっていました。

正義感が強く、元気で働き者。明るくてポジティブな女性たちですが、男性の立場から見ても凄くチャーミングな華のある素晴らしい女性が徳島にはたくさんおられます。その女性に、徳島の男性は惹かれて日々頑張っておられるというのが現実だと思っております。

本日は、国民文化祭という素晴らしい祭典の中、県内はもとより県外の方々にも阿波の女性の良さを理解していただき、「阿波おんな＝徳島」「徳島＝元気なまち」ということをPRするために、「阿波おんな」たちのパワーとそれを支える徳島の風土を様々なプレゼンテーションで皆様にお届けします。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。
そして 阿波おんなのヒミツを見つけてください。



徳島県知事
飯泉 嘉門

女性の皆さんの感性が元気な所が、 一番文化度の高い地域

県内外よりお越しの皆様方、「第22回国民文化祭・とくしま2007」によるお出で頂きました。心から歓迎申し上げます。

この国民文化祭ですが、我が国で最大の文化の祭典であります。そして徳島らしさを出して行こうという事で「おどる国文祭」と呼ばせて頂いております。徳島の女性の皆さんは元気だけではなくて経済界への進出が正にオンリーワンならぬナンバーワンであります。社長さんに占める女性社長の比率1位。これは言うまでもない所ですが、さらに副社長、或いは専務、常務という役員の皆さん。こちらは全国平均の何と1.5倍以上のダントツの1位であります。

お越しの徳島の男性の皆さんは耳を閉じておいていただきたいのですが、実は総務省の統計の数字に、家計に占める妻と夫の所得割合という統計がございます。何と10年以上にわたって徳島県では妻の所得割合が全国第1位という事です。また、さらにはお医者さん、或いは歯医者さんが占める女性のドクターの皆さんの比率は、お医者さんで全国第3位。そして歯医者さんは何と全国第1位であります。このように徳島の女性の皆さんは経済界、そして医療界をはじめとし社会進出ではダントツの日本で1位という事なのであります。これもすでに結成から10年以上というご活躍をして頂いております「AWAおんなあきんど塾」の皆さんの感性、そして斬新な考え方、これらが本県の経済を本当に豊かなものにしていくおかげであると改めて感謝を申し上げる次第であります。

さらに21世紀は精神の世紀。そして文化の世紀。このように言われる中、やはり「女性の皆さんの感性が元気な所が、一番文化度の高い地域だ」。このように言われております。そうした意味では21世紀は正に、阿波女の世紀と言っても過言でないのではないかとこのように思っております。しかし、今日は全国からお越しの皆様方もお見えになりますので、「いや、私の所が1位だよ」と、こう思われる方も大勢おられると思います。そうした皆さんには是非この阿波女の皆様方の心意気というものに触れて頂きまして、その相乗効果といたしまして、日本の女性に世界で一番、この21世紀文化に於ける旗頭、牽引者となって頂くように、今日のこの「阿波おんな元気サミット」を大いに盛り上げて頂ければと思います。

この「阿波おんな元気サミット」を通じまして、「阿波文化」が日本の文化の代名詞となり、しっかりと全国の皆さんに印象づけられますよう、そして主催を頂きました「AWAおんなあきんど塾」の皆さんの今後益々のご発展、さらには本日まで出席の皆様にとりまして、これから益々飛躍の時となります事をご祈念申し上げ、私の感謝の言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

輝くグループ プレゼンテーション
藍染めフロアファッションショー



藍の色は海の色や空の色、
 そして温かみのある色や風合いが
 人気の秘密



オートクチュール板東
 ファッションデザイナー
板東 美千代



(有)アン・モデルエージェンツ
 代表取締役
青江 文



(株)ひまわり 取締役常務
 HAIRZ津浜店 店長
大岩 明代

板東:皆様こんばんは。
 今日、藍染めファッションショーが今か
 ら行われます。受付でもすでに気が付
 いた方がいらっしゃると思いますけれ
 ども、いかがですか?「AWAおんなあ
 きんど塾」のキャストさん達がモデル
 になっているんですよ。もの凄くカッコ
 いいんですよ。

司会者:もう、自分で感動しています。
 凄いなあと感じて。

板東:本当にエレガント!あきんど塾の
 メンバー自らモデルになっておりまして、
 皆さんこれから続々と出て来ますので
 どうぞじっくりとご覧になって下さい。
 どのように美しくなっていくか……。

司会者:そうですね。私も始まる前か
 らすでに、この作品は一体何?という

Aizome Floor Fashion show



ふうに興奮しています。

板東:藍染めというのは徳島の伝統
 工芸文化であるとても有名なもので
 すけれども、何とこのデザインはニュー
 ヨークのデザイナーによるものです。
 それも18年前のものなんですよ。

今から出てくるデザインは全部18
 年前のニューヨークのデザイナーの
 作品です。以前(徳島市制100周年)
 の特別事業としてファッションショーを
 開催致しました。

ニューヨーク、東京、徳島でファッ
 ションショーが行われて、それ以来ずっと
 倉庫で眠ってたんですよ。18年振り
 に蘇ります。ぜひ皆様思いっきり楽し
 んで下さい。

司会者:藍染めのフロアファッション
 ショー、ご覧下さい。





輝くグループ プレゼンテーション

藍染めフロアファッションショー



ファッションショー終了後…。

司会者:皆様いかがでしたでしょうか。今一度大きな拍手をお送り下さい。さあ、それではAWAおんなあきんど塾とグループメンバーの皆様、各テーブルのお席にお戻り下さい。それでは改めて皆様にご紹介いただいた所で板東美千代さんにもう少しお話を伺いたいと思います。

板東:みんなどんどん綺麗になって行くんですよ。今日が最高潮です。

司会者:皆様、しっかり見ておいてくださいね。そして眠っていたという事なんですけれど、18年前と全く変わっていないんですね。

板東:そうなんです。フィッティングが良くてですね、あと、藍の色なんですよ。藍の色は海の色や空の色。そして本当にこの暖かみのある色や風合いが長持ちするところというのが人気の秘訣なのではないでしょうか。

司会者:今、色についてのお話がありましたけれども藍には本当にいろんな色があるんですね。

板東:はい。藍色は変化していくんですね。皆様お気づきになったかも知れませんが、このように色が変色したり、薄くなったりしていくのですけれども、これも本藍ならではの生きているという証拠なのです。

司会者:色にもいろんな名前が付けれられているみたいなんですけれども…。

板東:はい。皆様お気づきでしょうですけど、藍色っていうのは一色だけじゃなくて、とても薄い水色から濃い色まで沢山ありまして、全部名前が付いているのです。一番薄い色は「瓶覗き」と言われます。そしてやっと「藍色」です。その次に濃い色が「紺色」という風に、何か日本語の名前って綺麗じゃないですか。そういう事を経験することで勉強させられて凄く良かったと思います。

司会者:はい。徳島でもぜひ藍染めの作品や洋服を買いだいたいと言われる

方が多いんじゃないかなと思うんですけども…。

板東:はい。最近よくあちこちで紹介されておりますけれども、“すくも”というものを「藍師」、染料を使って染める職人さん達…。

司会者:紺屋さんですね。

板東:紺屋所とかありますね昔から。江戸時代からあります。それからそれを使って洋服を創るデザイナーは徳島には沢山いらっしゃるんですよ。

司会者:はい皆様。藍染めを是非お気に入り一品に加えて頂きたいと思うのですが…

そして今日のモデルさん達のウォーキング!素敵でした。

板東:そうなんです。皆さん素敵だったでしょう。やっぱり阿波女は凄い!! 「こういうのやったらどうですか?」とかいろんな提案をしたんです。これを使ってとか…。そしたら皆さんが、やろうって言ってどんどん自分がモデルになりきって行くの。

司会者:本番が一番良かったですね。

板東:徳島にもモデルクラブがあります。社長さんは今回参加している青江文さんです。青江さんのおかげで毎日のようにモデルになりきれ自分がありました。そして猛特訓をして今日に臨んだ訳です。

司会者:徳島には元気のいい素敵な女性が本当に沢山いるんだなと実感しました。

薄々感じておりましたけれども…。皆さん今日、目の当たりにしてどうでした?

板東:本当に徳島の女性は元気で働き者です。これを全国に、全世界に売り出し、阿波女ブランドにするということで(笑)。皆さんもそう感じたのではないのでしょうか?

司会者:モデルも一緒に?

板東:営業宜しくお願い致します(笑)

司会者:はい。

ありがとうございました(笑)

Aizome Floor Fashion show



衣装もステキだけど
モデルさんたちも
すごく輝いているね。





創るグループ プレゼンテーション 世界初の国際ポスター展

徳島からも
文化の発信は
必ずできる



グラフィックデザイナー
敷島 のり子



佐藤デザイン工房
佐藤 あすか



アナウンサー
敷田 ひとみ



私はグラフィックデザイナーであり、ポスターギャラリー実行委員会会長をしておりますが、日常は徳島文理大学に勤務しておりますので、グラフィックデザインとは全く無関係な仕事をしております。しかしながら今考えてみますと、グラフィックデザイナーとしてどっぷり浸かっていなかったからこそ、ポスターギャラリーの活動が出来たのではないかと考えております。

私達は8年前からすでに展覧会をしていたのですが、ポーランドの有名なデザイナーから是非個展をしたいという申し出がありまして、世界初の試みになる国際ポスター展を開催致しました。

これまでにポスターを提供して頂きましたのは、世界16ヶ国、83名のグラフィックデザイナーで、ポスターの数は530枚にもなります。これからも私達の活動を世界に向けて発信して行きたいと考えております。



AWAおんなあきんど塾プロデュース

阿波おんな元気サミット

協賛：グリーンテクノ(株) / life concept IEG / 石原金属(株) / (株)いろどり / 四国化工機(株)阿波うず潮ビール



彩るグループ プレゼンテーション

いろどり農家のおばあちゃんに聞く

70代、80代のおばあちゃんたちが、どうして2億5千万円も売り上げられるのか？ どうしてお元気なのか？

日本料理を引き立てる名脇役「いろどり」を育てて、バックして、出荷しているのは、ここにご紹介する190軒、平均年齢70才のおばあちゃんやおじいちゃん達です。

毎日忙しくて楽しくて、「病院やデイサービスに行っている暇がない」。「市場が休みの日には一番体が辛い」と笑うお年寄り達。この元気な笑顔が仕事をする事の喜び、自分で考え行動することの充実感として明日への希望を教えてください。

いろどり農家のおばあちゃん達は横石さんの発信する情報をパソコンや無線ファックスで受け取り、明日する事、来週する事を、5年後・10年後の為に今する事を自分で考えて行動しています。市場の動向を読み取って、翌日の出荷内容を組み立てたり、来年の売れ筋を分析して人気商品の栽培を考慮したり、将来の為に毎年内容を模索し続けているのです。おばあちゃん達は、お金の儲かることも嬉しいけれど、自分たちの仕事が評価されることが何よりも嬉しいと言います。そして町を離れて

いた子供夫婦や孫夫婦がUターンで帰ってきて、三世代、四世代で住み、一緒に「いろどり」の仕事をする家も増えてきました。また上勝町の様々な新しい取り組みを聞き付けて全国からUターンでやって来る若者も後を絶ちません。

そんな、いろどり農家さんの中から、今日はこれまで何度もテレビや新聞に登場し、今年(2007年)4月には「中居正広の金スマ」にも出演した針木ツネコさん、菖蒲増喜子さんの二人のおばあちゃんにもお越し頂きました。お二人にもたっぷりお話しして頂きますので、どうぞお楽しみに。

今日は皆さんの為に上勝町から運んできた山の自然のエネルギーと、おばあちゃん達の笑顔の力をいっぱいお土産にお持ち帰り頂きたいと思っております。



いろどり農家
針木 ツネコさん



いろどり農家
菖蒲 増喜子さん

※横石知二(よこいし・ともじ)氏プロフィール

1979年、上勝町農業協同組合に営農指導員として入社。86年、つまもの事業「いろどり」を企画、立ち上げ。96年に上勝町に転籍。2002年に上勝町を退職、株式会社いろどり専務取締役に就任。同年、「Entrepreneur of the Year」日本大会にて、ソーシャル・アントプレナー賞を受賞。



彩るグループ プレゼンテーション

いろどり農家のおばあちゃんに聞く

おばあちゃんたちの葉っぱビジネス。
たくましく、しなやかに生きるおばあちゃんたちに
元気を分けてもらいましょう。



(株)立木写真館 常務取締役
立木 さとみ

病気になるって
暇がないですよ。
おばあちゃんは
いつまで
「いろどり」を
続けるつもりですか？
死ぬまで(笑)。
(笑)死ぬまでですと
力強いお言葉を
頂きました(笑)。



立木:「いろどり」を始める前は、秋になったら葉が落ちて落ちて、掃除が大変やったんですけど、今はそれが売れるんです。なんぼやったっけ?

菫蒲さん:一枚20円

立木:25円のときもあるんよね?「一枚25円。一枚25円。」って言いながら採るんですけど(笑)。針木さんのお宅は何を扱っているんですか?

針木さん:紅葉モミジと南天と青モミジ。

立木:この仕事は一年中忙しいんですけども、山から勝手に採って来るとは思わないよね。育てよるんよね全部。

菫蒲さん:栽培しよるんです。

立木:栽培はどんなところが難しいんですか?

菫蒲さん:虫が付いたりね、病気になったりね。木が枯れるんですよ。虫が入ってね。大変です。

立木:針木さんともうけ来られたんね。「いろどり」始めてから。

針木さん:やっぱり雑草が生えたり、つるが巻いたりしますからね。手入れが大変です。

立木:本当ね。みんな山からフツと採って来て、パッと出するように思うんだけど、そんなん出来んわな?(笑)

針木さん:大分世話にゃいかんのです。

立木:本当、畑に果樹とか他の作物植える変わりに、いろんな木を植えられて、手入れをされてるんですね。で、ハウスを

掛ける時もあるし、肥料もやるしで世話しとんよね。

菫蒲さん:世話役しとります(笑)。

立木:ここのお父さんもね、83歳?

菫蒲さん:81。

立木:81歳なんですけど、未だに10メートルくらいの所に登るんですよ。脚立が届かない枝の上に登って行くんよね?落ちた事はないんですか?(笑)

菫蒲さん:落ちた事はないです(笑)

立木:ほんまね。こういう山の暮らしをよく知った人じゃないと出来ないんですよ。

立木:針木さんの所はこの前も視察が来たんでしたっけ?

針木さん:ようけね、大きいバスが何台も来ました。

立木:しょっちゅう来よんなあ、県外から。

針木さん:ありがたい事です。

立木:菫蒲さんの所はおとといフランスから来たん?

菫蒲さん:フランスから来ました(笑)。えーっとね4日の日にドイツからも来てます。

立木:ほんま世界中から注目されとんなあ(笑)。

菫蒲さん:あはは。有り難い事です(笑)。

立木:本当ね、しょっちゅう視察とか取材の人が来るんですよ。パッと行ったらロケバスとかが留まったりしてるんですよ。こんだけしょっちゅう、しょっちゅう取材に来られて邪魔じゃないですか?

針木さん:邪魔な時もある(会場爆笑)。昔はね、よくこちらから視察に行っとったんです。今は逆にお客さんがね、外国からも大勢来てくれます。

立木:菫蒲さんのところも外国の人多いなあ。

菫蒲さん:多いよ(笑)。中国とか韓国とかからも来ます。

立木:この前誰かにほっぺにチューされましたよね?

菫蒲さん:メキシコの人にね(会場爆笑)。

立木:商品作りは毎日毎日なんですけれども、こういう風にパソコンで情報を取っているんです。これは毎日新聞みたいに刷っているんです。日に何回か。そしたらどこその誰それさんの何という商品が、どこの市場でいくら売れましたっていう情報が出たりとか、あなたは今、何人中何番ですっていうのが出るんですよ(笑)。だから通信簿みたいなやなあ。

菫蒲さん:10番以内になれたらいいんですよ(笑)。

立木:凄いでしょ。170人中10番以内におりたいんですよ。このおばあちゃん(笑)。針木さんは目標は何番?

針木さん:今は何番か分からんけど11月になったら何番か分かるけんね。でも本当に5番以内には中々入れんけんね(笑)。

立木:そうね。忙しい中みんなが沢山出すからね。それでも5番以内におったらやっぱり嬉しい?

針木さん:嬉しい。

立木:後、このパソコンは2年前の方式ですから大きいパソコンなんですけれども、これに光ファイバーが入ったんよね?使

いやすくなりましたか?

菫蒲さん:使いやすいよ。早よ入って早よ動くね。ボタンをポンと押したらパッと動く(笑)。

立木:(笑)言うことが違うでしょう。82歳と85歳の方がパソコン付けたら入るのが早いでって言ってますもんね(笑)。おばあちゃん所も光ファイバーやね?

針木さん:うん。毎日毎晩パソコン観るのが楽しみ(笑)。

立木:それで光ファイバーになって横石さんが光ファイバーオタクやなあって言うんね(笑)。

立木:それでこの前お二人は東京へ行って「金スマ」に出られたんですけども、あの時は飛行機に乗って東京へ行ったんですよ?

針木さん:久しぶりに乗りました。

立木:大変でしたか?

針木さん:そんなことなかったです。

立木:おばあちゃんは横浜のお孫さんに、何かマンション買うときお手伝いして上げたんな?その時もマンション観に行ったんですよ?

針木さん:あんな所に年寄りになったら住もうと思わんね。やっぱり上勝が好き(笑)。

立木:ほんまですんねえ(笑)。菫蒲さんは東京へは久しぶり?初めて行ったん?

菫蒲さん:はい。

立木:どうでした?

菫蒲さん:珍しかったです(笑)。二重橋とか、靖国神社とかね。東京タワーとかね。

立木:観光出来たんやね。

菫蒲さん:観光連れて行ってくれたね。

立木:これからもずっと「いろどり」をしたいですか?

針木さん:はい、もう元気な内はね。します(笑)。

立木:休んでる理由ないもんね。朝から晩までですか?

針木さん:朝から晩まで(笑)。晩12時に出荷するけん。それまではずーっと仕事時間です。それで朝は早くからまた山へ行って、もうずーっと忙しいです。

立木:病気になるって暇がないですよ。菫蒲さんはいつまでしたいですか?

菫蒲さん:死ぬまで(笑)。

立木:死ぬまでですと力強いお言葉を頂きました(笑)。本当に今日はこのお二人に代表して来て頂きましたけども、上勝にはまだまだ元気なお年寄りが沢山おられるんです。

今日は、本当にとっても素敵な心に染みるメッセージがたくさんありました。

上勝町のおばあちゃんたち、菫蒲増喜子様、針木ツネコ様、どうもありがとうございました。

皆様どうぞ大きな拍手をお送りください。



味わうグループ プレゼンテーション
2007年オリジナル
ぞめきコース



HITOMIクッキングスタジオ
鈴木 仁美

徳島の食材を活かした
徳島らしいコース料理を表現

本日のお料理のテーマですが「2007年オリジナルぞめきコースです」。ぞめきとは阿波おどりのお囃子。笛とか太鼓ですね。そのお囃子のにぎやかな様子の事を言います。そのぞめきを今回は徳島の海の幸、山の幸、川の幸をふんだんに使いコースとして表現しました。

まず運ばれて来ているオードブルですが、プリの炙り漬け。そして、鳴門わかめと和田島産のちりめん、阿波牛のコールドビーフ、阿波もち豚と鳴門金時を使いましたコンフィー、の四種類となっております。徳島の素材は素材自身が良いので、その素材を活かしましてシンプルな味付けでお召し上がり下さいませ。

2品目は清流吉野川流域産の阿波尾鶏とそれに海の幸の海老を合わせましたスープです。色鮮やかな天然青海苔の緑と、海の幸であります海老の赤のコントラストが美しい一品となっております。周りにゆずを搾ったものを置いてありますので、お好みに合わせてお召し上がり下さいませ。

3品目ですがメインディッシュです。徳島の地鶏であります阿波尾鶏か、鳴門鯛の炭火焼きを選んで頂きます。きのこ野菜たっぷり、この季節、秋にぴったりの一品です。

さあ、最後のデザートなんです有名なスタヂを使ったジュレ&ソルベです。さっぱりと口当たりの良い仕上げとなっております。最後の一品ですので、スタヂの風味の良さを楽しんで頂ければと思います。



テーブルコーディネートスタジオ(株)ON THE TABLE
島内 陽子

尚、本日皆様お着席の際に、ヤマモモかスタヂを選んで頂きましたカクテル風のビールですが、本日の為にバーテンダーの岡田ゆかりさんに仕込んで頂きました。また、「いろどり」の話も出ましたが、今日テーブルコーディネートに「いろどり」の葉っぱを使った島内先生にもお話を伺いたいと思います。ではご紹介致します。



▲作業中の岡田ゆかりさん

テーブルコーディネートで
食事は文化になる

皆様こんばんは。島内陽子と申します。

今日はテーブルコーディネートを担当させて頂きました。今日は本当にお忙しい中をありがとうございます。先程のお話にもありましたが、本日はいろいろ農家の方々のご協力によりまして、皆様のお手元の飾り付けとかに様々な自然の物を利用致しまして、徳島の秋を皆様のテーブルに散りばめてみました。

それぞれテーブルによってコーディネートを変えてございますので、またお帰りの際などに他のテーブルの様子もご覧になっていただければと思います。このようにテーブルを、食卓を少し彩るだけで食事というものが一つの文化になると思っております。

今日のひとときが皆様にとって思い出に残るひとときでありますように、最後までどうぞごゆっくりとお楽しみください。





ときめくグループ プレゼンテーション
**新たなる踊りを求めて
 徳島が世界に誇る
 阿波おどり**

**阿波おどりは
 自由奔放な踊りです**



阿波おどりグループ「虹」 四宮 賀代



ビューティディレクター
 今城 実紀



カラープロデューサー
 福永 由里子

私も二歳の頃から阿波おどりを始め、父の所属する連に席を置きました。確か二十歳の頃でしょうか。女リーダーを任せられて、そこから私の阿波おどり革命は始まります。革命を起こそうと思って起こしたわけではないのですが結果的にそうになりました。まず、女踊りをどこの角度から見ても美しくなるように徹底しようと、独自のマニュアルを作りました。手探りではありますが、カリキュラムに乗っ取って何とか踊り子を育てました。と同時に、舞台構成もかつては男の人達が手がけていたものを私達に任せてもらって、何かダラダラしているんじゃないかなあ・・・と思っていたので、それに一石を投じようと感じたのです。

で、一番最初にヒントを得たのがマーチングバンドのフォーメーションでした。彼らは楽譜に乗っ取って、小節小節で移動しているんですね。それを阿波おどりに活かそうと思ったときに、どうしよう?って思ったら、「歩数なら数えられる」そう思ったんです。それで歩数を数えながらどんどん体系が変わる。これはその当時は目からウロコの大革命でした。

それを舞台上で表したときのお客さんのざわめきは凄かったのですが、それよりも舞台のそでに沢山の他の連の方が、覗き込んで「え?何であいつが動きよんや?」「え?合図もせんににどんでん動きが変わりよるぞ!」。みたいな声をつぶさに聞いた覚えがあります。

こうして「四宮の踊りは凄い!」「四宮の舞台は凄い!」。とたちまち噂になりました。そして踊り方を真似する者、舞台の構成をパクる者、それ一遍となりました(笑)。まあ、あのパクるんですよ。皆さんすぐに(笑)。

パクられても仕方がないなあって思ってますけれども(笑)、そうこうしている内に私もリーダーで7年が経って、ちょっと役員会で何か提案しようかな?と思い、「スイマセン、提案があります」って言った時に、男の上層部の方が「女は黙っとれ!」の一言で終わらせられました。それで私は連の限界を感じ退連を発言しました(笑)。

退連後、間もなく他の連から「阿波おどりの指導をしてもらえないか?」と依頼がありまして、それでは「三年かけて頑張りましょう」と意気込んでいた所、たった1年で見る見る内に成長しまして、またこれが徳島中の噂になりました。それで徳島では私が手がけたら凄いという噂が飛び交いまして(笑)。まあちょっと天狗になっていましたけれどね(笑)。

そんな時に、民謡界の研究をなさっている方から阿波おどりの研究チームを作らないか?という声が掛かりました。これが現在の阿波おどりグループ「虹」の始まりです。

「虹」という由来は、踊り子が私1人、鳴り物が6人の計7名が、七色の色を持ち合って一つのを表現しようという意味の、観る人・聴く人との間に虹の架け橋が架かったら。という想いで「虹」と名付けました。

「虹」という形は連という固まりを取り去って、自由奔放に可能性を追求するには私の格好の場所です。ここから私の第二の阿波おどり人生が続いています。

こうやって私は、数少ないステージになってきましたけれど、未だに他の連の人達にピ



デオに収められ、裏で発表されております(笑)。でもまあ、それも仕方がないかなあと諦めてですね、それよりも逆に「新しいステップを創り出す原動力にしよう」という風に考えるようになりました。ただ時々、私のステージを見たお客様が「あ!ナントカ連の真似しよる!」と言われてたりですね(笑)。本当は私らが元々やのに・・・そういう風事があってショックも受けますが、これはもう自分がリードして行っているんだと思えば別にどうって事ないんだと(笑)。

それよりも私達の舞台は、私達が創り上げたステップで表現するから「虹」の世界なのです。

ですからステップは真似出来ても「虹」の世界は真似出来ないと思っています。

これからも一人でも多くの方々の前で「虹」の世界を展開し、自由奔放そして可能性を秘めた本家本元のオリジナルステップを皆さんに理解して頂けるように、これからも頑張っていきたいと思っております。

ありがとうございました。

●ステージ終了後 四宮 賀代氏ヘインタビュー

司会者:四宮さん本当にありがとうございました。

もう本当に凄かったですね。皆さんも踊らされたんじゃないですか。(拍手)

四宮:ありがとうございます。皆様の前で「虹」の世界をお見せできた事、本当にうれしく思います。ありがとうございました。

司会者:四宮賀代さんにとって阿波おどりは何ですか?

四宮:私の人生です。(拍手)

司会者:本当に「虹」の皆さんの世界を見せて頂いて、私達も幸せな気持ちになりました。

四宮:ありがとうございます。今度は皆さんの番です!

司会者:そうなんです。という事でやっぱり「踊る阿呆に見る阿呆。同じ阿呆なら踊らなソソソですね!」

四宮:皆さんどうぞ席を立たれて、一緒に踊りましょう!

(お囃子が始まり会場全体乱舞に突入)

乱舞終了後

司会者:みなさんどうもありがとうございました。

阿波おどりグループ「虹」の皆さんに大きな拍手をお送りください!!本日はありがとうございました。



総合司会者
 藪田 ひとみ

